

学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学進学者数の維持・増加 ・難関私立大学進学者数の増加
計画名	QA (Question & Advice) スペースプラン ～進路に向けての疑問はここで解決！～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 進路を実現する確かな学力の養成（2）一人ひとりの生徒の希望の進路を実現する。</p> <p>ア 進路について考える機会を豊富に用意し、希望の進路を実現する強い意志を育む。</p> <p>イ 学習習慣の確立のために、年間を通じた自習室運営、長期休業中の勉強合宿などに学校組織として取り組む。</p> <p>ウ 情報収集、情報分析を行うとともに、志望校情報交換会などを行い、生徒支援のための情報共有を進める。</p> <p>* 28年度入試結果（国公立39名、関西難関私立大学250名）を30年度・31年度入試でも国公立大学35名以上、関西難関私立大学合格230名以上を維持する。</p>
事業目標	この「QAスペース」は、従来本校が力を入れて全教員で運営してきた「自習室」など生徒の自主学習の習慣確立をサポートするための質問スペースであり、また、進路指導部が主催して教員が情報収集・情報分析した進路情報を個々の生徒に伝えていくためのアドバイススペースであり、進路決定に向けて不安を抱く生徒に寄り添い励ますためのカウンセリングスペースともなる場所である。このスペースを設置することで、生徒の進路実現のための支援を強化する。
整備した 設備・物品(数量)	<ul style="list-style-type: none"> ・二人用机…15脚 ・椅子…30脚 ・電気スタンド…15台
取組みの 主担・実施者	教頭、首席2名
本年度の 取組内容	<p>本校では、8月及び年末年始の各4～6日間を除き、平日は午前7時から午後7時まで、土曜日曜祝日は午前9時から午後5時まで、生徒の学習意欲を喚起し学習習慣の確立を支援するため、毎日自習室を開室している。定期考査期間中には自習室の座席が不足することから、自習室のほか視聴覚階段教室、会議室の2つの部屋が臨時的自習室となることもある。今まで、生徒が自習室等で自学自習を行う過程での教員への質問等については、自習室は完全に無言での活用が習慣となっているため、各教科の職員室前などで、生徒、教員の双方が立ったまま、質問をしたり、指導を受けたりしていた。</p> <p>今回、学校経営推進費を活用したQAスペースを設置したことにより、質問等がある生徒は、各教科の準備室前に設置された「QAスペース」で双方が座った状態で指導を受けることができるようになった。</p> <p>QAスペースの新設により、生徒からは「質問しやすい」、「質問を待つ間も勉強できる」といった声が聞こえる。また、教員からは「熱心に質問、自習している生徒が多数見られる」「出勤してくる教員を準備室前のこのスペースで勉強しながら待ち構えている」などの感想が聞かれ、QAスペースは非常によく活用されている。</p>
成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学合格者数目標35/360名以上（H28:38/400名、H27:26/360名） ・難関私立大学合格者数230/360名以上（H28:250/400名、H27:130/360名）
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学合格者数の維持・増加 ⇒平成27年度は19名、平成28年度は22名の国公立大学進学者（現役）を出した。 平成29年度は3年生1クラス減にもかかわらず、全体では27名、現役では22名の合格となり、成果指標には及ばなかったものの、現役生の成果ではQAスペースの効果は出たと思われる。（○） ・難関私立大学進学者数の増加 ⇒平成27年度は194名、平成28年度は214名の関西難関私立大学合格者数（現役）であった。 平成29年度の合格者数（現役）は147名となり、期待には及ばなかったものの、クラス数の減少及び今年度の私立大学全体の合格者数の減少から見ると健闘しており、QAスペース活用による成果は出ていると思われる（△）
次年度に向けて	今年度、経営推進費でQAスペースを設置できたのは9月末となり、下半期での活用となった。また、冬季の活用は廊下の気温が下がるため、十分な活用ができたと言い難い面もある。次年度は年間通して十分活用していきたい。また、次年度以降も多くの私立大学で合格者数が絞られる見通しであり、それを踏まえて受験指導対策を立てていきたい。